



## そうのババール

そうのババールシリーズ

ジャン・ド・ブリュノフ さく

やがわ すみこ やく

評論社 1974年 1260円

48ページ 28×20cm

そうのババールは、ある日悪者の狩人にお母さんを撃たれてしまい、逃げるうちにまちに辿り着きます。初めて見るまちにびっくりのババールは、優しいおばあさんと暮らし始めます。毎日楽しく暮らすババールでしたが、森のことを思い出すと寂しくて涙が出るのでした。しばらくたったある日、久しぶりにいとこのそうたちに会ったババールは森に帰る決心をします。帰ってきたババールをみんなは大歓迎します。ババールは新しい王様になり、結婚して幸せに暮らしました。そうのババールシリーズでは、楽しいこと悲しいこと、いろいろな事件に好奇心旺盛なババールが遭遇します。この本はそんなババールが人間と初めて出会う子どものおはなしです。

---

## そらいろのたね



なかがわ りえこ 文 おおむら ゆりこ 絵

福音館書店 1964年 780円

28ページ 19×27cm

ゆうじがひこうきを飛ばしていると、もりのきつねがやってきました。二人はひこうきときつねの持っていたそらいろのたねとを取り替えました。ゆうじがたねを庭にうめると、次の朝小さなそらいろの家がでてきました。ゆうじがおおきくなあれと水をかけると家は大きくなっていきます。どんどん大きくなった家は、やがてゆうじや動物たちも入れるくらいになりました。そこへやってきたきつねは、おおきくなったそらいろの家を見て、ゆうじにひこうきとまた取り替えてと言うのですが…。

そらいろのたねから家がでてきてどんどん大きくなる、そんな不思議なできごとにかくわくどきどきすること、うけあいです。